



## 最近の職場内訓練 (OJT)を紹介します。

三八上北森林管理署

当署では新規採用者を含む若手職員7名を業務に関する専門的技術の習得・向上を目的にOJTの対象者として、年間計画に沿って実施してきております。また、このOJTへは対象者以外の職員参加も認めております。

対象者の7名はOJTの予定に合わせ、当然ではありませんが日頃から担当業務の調整を図りながら、強い意気込みをもって参加しています。

昨今のコロナ禍における現状の中、中央研修等が中止となっており、OJTは貴重な機会と



レベル測量の練習中

捕らえ、指導する側も今後の国有林野事業を担う人材としてより一層成長するよう指導しております。

また、林道特殊修繕工事発注のための測量設計もOJT対象職員により、5～6月の3日間で実施しています。

## 【十和田燐寸軸木工場の見学】

7月16日(木)に、十和田市にある十和田燐寸軸木株式会社にて、当署の若手職員を中心とした11名が工場見学を行いました。

同社は、現代の物流社会では欠かすことのない木製パレット・木枠梱包用材を主要事業としており、その際に生じるのこくずや粉砕バークも家畜用敷料や長芋の梱包用として丸太1本1本から余すことなく商品として販売しています。

平成31年に生産性向上のため工場を新設、東北では初となる無人製材機を導入し、最大200m/日の丸太の処理が可能です。しかし、現在は新型コロナウイルスの影響により生産量が4～5割減の状況にあるそうです。

無人製材機(ロボットツインバンドソー)は、製品サイズを入力するだけで自動的に製品が仕上がります。有効的に材が取れるよう丸太の特徴を機械が瞬時に判断し、切断ラインを決め

た後、丸太を転がしながら二枚の刃で両側から一気に切断するところまで全て機械が自動で行う技術には圧倒されました。今後益々工場の無人化が進み、人手不足問題の改善や低コスト生産が実現していくのかなと感じました。



無人製材機

## 【大畑ヒバ施業実験林の見学等】

青森県内の青森、金木、下北の3(支)署は、管内のヒバ林を「ヒバ林復元推進エリア」に設定して、主に天然林更新によりヒバ林を復元する「ヒバ林復元プロジェクト」に取り組んでいます。

今、青森県全体がヒバ林復元に高い関心を示し、盛り上がりを見せている中、当署の若手職員の間には青森ヒバに馴染みがない（当署のヒバ林はごく僅か）状況にあります。このため、下北森林管理署に大畑ヒバ施業実験林の見学と青森ヒバの特性等の勉強会の企画を依頼したところ快く引き受けていただきました。



実験林見学前に座学指導

7月27日（月）午前、下北署入札室において総括森林整備官等より、青森ヒバの特徴、木材としての使われ方、流通経路、

大畑ヒバ施業実験林の設定目的やこれまでの取組等丁寧な説明がありました。

また、同日午後は「大畑ヒバ施業実験林」内の旧森林鉄道軌道跡を歩きながら、更新方法、伐採後の蓄積推移等の説明をしていただきヒバの大径木に圧倒された後、大先輩方が手掘りで掘った真つ暗なトンネルを通過したり、吊り橋を渡る等貴重な体験をさせていただきました。本見学会に参加した10名は、日本三大美林のひとつでもある青森ヒバの特性や木材としての価値の高さ等を知ることができとても有意義な一日となりました。



実験林内での説明

### 【採材検討会と

#### A-1丸太検知くんの実演】

7月30日（木）に当署主催で採材検討会を開催しました。参加者は林業事業者、地方自治体の林業担当者、局署の担当者など計62名となり、当署の若手職員は5名参加しました。

青森事務所担当者から「一口ナ禍における木材生産は、製材所、LVL工場等の様子を見ながら民有林材の動向にも配慮したきめ細かな採材が必要」等の現状紹介があり、引き続き当署担当者から、採材検討をする際の注意事項等について説明をしました。

その後、3班に分かれてスギ等の採材検討が行われましたが、各班それぞれに経験豊富な事業者の皆さんが配置されており、材の欠点等により長級を決定した旨の説明がありました。当署若手職員が口を挟む余地はなく、生産現場特有の専門用語（十訛り）が飛び交い意味を理解するのに必死でした。



広葉樹の採材を検討中

最後に、ICTを活用した素材検知を参加者が体験しました。スマートフォンで撮影した写真を、アプリケーションを用いて検知を行う「A-1検知くん」の紹介と操作方法について詳しく説明があり、我が職場にもヒシヒシとA-1が浸透してきていると実感しました。



AI 検知くんが丸太小口を解析中